



双ヶ子のけ

山道に咲くアザミを見てみると、そばにいた人が「アザミには薬効があるらしいね」と教えてくれました。キク科の植物で、葉や総苞にトゲが多く、触ると痛い代表のような存在です。世界で二百五十種以上、日本だけでも百種はあると言われ、ヨーロッパではあるアザミが二千年以上も前から肝臓疾患等に種子が利用されてきたそうです。アゲハチョウに蜜を提供しているところは、よく見かけますが、私たちも恩恵を受ける時が、あるかもしれません。



今、ふれあいの村では・・・

ヤマユリは、昭和二十六年一月に全国に先駆けて神奈川県『県の花』に制定されました。しばらくの間、目と鼻を楽しませてくれましたが、今年はこの一輪を最後に見納めです◆暑さの中、木立が緑陰の涼しさを提供してくれます◆ハナイカダはこの果実が好物の虫にまだ見つからないようです◆カラスアゲハが水を飲みに来ました。水を少し追加すると、吸い上げては飛翔するを繰り返していました◆村にお越しの皆さまも、水分補給をお忘れなく。



残り花 ヤマユリ



ウリハダカエデ



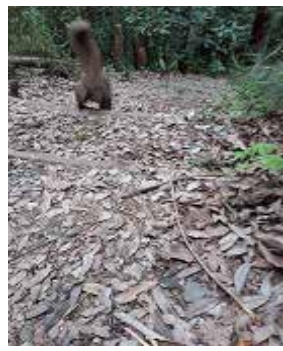
ハナイカダ



傷ついたカラスアゲハ

☆来月のファミリーコミュニケーションデー：9月3日（日）
10:00～12:00《自然観察会》実りの秋、里山の花たち（秋の七草）
鳴く虫のいろいろ（クツワムシの合唱）
13:00～15:00《777教室》「ラプシート」を作る（材料費等：150円）
※ファミリーコミュニケーション運動の一環として、毎月、第一日曜日に開催中です。
※申込み・問合せは電話などで、お気軽にどうぞ。

神奈川県立足柄ふれあいの村（南足柄市広町1507）
指定管理者：足柄グリーンサービス・関東学院グループ
所管課：神奈川県教育委員会教育局支援部
子ども教育支援課
電話：0465-72-2010 FAX:0465-72-2013
URL：<http://www.ashigara-fureai.com/>



ふれあいの村でくらす
 さんたろうとなかま
 たちは、ムササビの
 きゆうしゅつさくせん
 にさんかしました。
 コテージをりようし
 たおきやくさまから、
 「てんじょうから、
 しょうどうぶつのあし
 おとのようなものがき
 こえる」などのこえが、
 よくきかれるようにな
 っていました。
 ふれあいの村のしょ
 くいんさんたちが、
 てんじょううらにあ
 がって、すこしよわ
 たムササビをみつけ
 ました。すこ
 してから、そとに
 だと、とほうにく
 れたようなかおをし
 ています。でも、すぐ
 に村のおくのほうに、
 はしっていきました。
 よかったあ！しょくい
 んさんがあたらしい
 うちをつくっていたけ
 ど、きがつくといいいね。

★フィールドワーク★

自然の生活とは？

野外を探検・調査・観察することをフィールドワークといいます。



エサキモンキツノカメムシ

夏一番の村内を歩くとセミの鳴き声がひときわ大きく聞こえます。他の虫がなかなか見つからないのは、暑いので足早に歩いているからかもしれません。それと、昆虫図鑑などで見る虫とのサイズ感の違いもあることでしょう。左にある、エサキモンキツノカメムシも図鑑では大きく掲載されていますが、実際はせいぜい15ミリ位のもののため、見落としてしまいがちです。体の大きさの情報も頭に入れて観察に出かけるとよさそうです。

毎年、今頃になるとスズメバチによる被害がニュースになります。ふれあい村では実験的にワナを作りました。ペットボトルに、酒：酢：砂糖＝2：1：1の配合をした液を入れて、村内数カ所にしかけました。また、ある実験で、白・黒・オレンジ色の風船をスズメバチの巣に近づけると、昼間は黒に、夜間は白の風船に攻撃をくわえ、割ってしまいました。両方の時間に無事だったのはオレンジ色で、ふれあいの村のユニフォームの選定基準？



ハキリバチの仲間 切り取りあと



自販機の光に誘われた虫を食べるアマガエル



ニホントカゲ



オオスカシバ幼虫



ゴミグモ



コフキゾウムシ